

福山駅前伏見町再開発準備組合

新調整役業者選ぶ

分割縮小案で再出発へ

JR福山駅前で再開合（藤本慎介理事長）らだ。

発ビルを計画する伏見町市街地再開発準備組合（藤本慎介理事長）は22日、福山市内で臨時総会を開き、再開発

の計画の総合調整役を担う新コーディネーター

者らの意見も踏まえた」としている。再開発事業では昨年9月、景気低迷に伴いコーディネーターの設計会社（埼玉県）が撤退し、同組合の選定委員会が候補を絞り込んでいた。一方、保留床



新コーディネーターを選んだ伏見町市街地再開発準備組合の臨時総会

計画の総合調整役を担う新コーディネーターにコーディネーターコンサルタント（大阪府）を選んだ。関係業者の撤退などで事実上中断している同計画は、南北に分割する縮小案で再出発する見通しとなりその

同社の案では、35階の高層複合ビルを建てる現計画よりも床面積を減らすため、伏見町地区（1・8畝）を南北に分割して開発する。福山駅側に当たる北側は「商業・公益施設」「都市型住宅」の各ゾーンに分け、それぞれ中低層のビルを建設し、広場を配置。南側には高層ホテルや駐車場などを建てる。計画策定には約2年かかる見込みで、同社の西田修社長は「地権者の負担を減らすため、現在の構想は全面的に見直す。学識経験

経済界の期待に応えるため、力を尽くしたい」と話している。

（浪速祐彦）

の買い取りなどを行う事業パートナー2社の後継は決まっていな

藤本理事長は「新たな調整役が決まり、計画実現に向けて身の引き締まる思い。市民や